

## 前橋文学館企画展「現代詩手帖」展 及び 第47回朔太郎忌の開催

### 1 前橋文学館 企画展「現代詩手帖」展

#### 詩の未来へ ～現代詩手帖の60年～ ことばはいつも私たちのそばにある

1959年6月に創刊した詩誌「現代詩手帖」は、今年60周年を迎えます。時代の変化と共に詩の変化を見つめ、自らも変容しながら、一貫してジャーナリズムの立場で詩と批評の発信を続けてきました。

本展は、詩人・萩原朔太郎の生地であり、1993年以来最も完成度の高い現代詩に萩原朔太郎賞を贈ってきた前橋において、「現代詩手帖」の60年を振り返る展覧会です。その軌跡をたどりながら、いつも私たちのそばにあることばについて、これからの詩の未来について考えます。

#### (1) 会期・会場

4月27日(土)～6月30日(日) 開館時間：9時～17時(入場は16時30分まで)  
水曜日休館 ※5月1日(水・祝)は開館、5月7日(火)を休館  
前橋文学館(千代田町三丁目12-10)2階展示室他

#### (2) 観覧料

常設展と併せて一般400円、高校生以下無料  
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名無料  
※4月27日(土)(展覧会初日)と5月19日(日)・6月16日(日)(学芸員解説日)は無料

#### (3) 内容

##### ① 2階展示

1959年と1960年代から2010年代までの雑誌をすべて展示し、キーワードを交えながら解説します。(雑誌720冊+その他資料150点)

##### ② 1階展示

(株)思潮社(「現代詩手帖」の発行元)とタイアップして、バックナンバー等を販売します。

##### ③ 学芸員によるギャラリートーク(2階展示)

5月19日(日)、6月16日(日) 13:00～14:00

#### (4) 関連イベント(文学館ホール 各先着100名)

##### ① 講演『「現代詩手帖」というジャーナリズム』6月1日(土)14:00～15:30

出演者：三浦雅士(文芸評論家)

##### ② トーク『「現代詩手帖」が始まりでした』6月8日(土)14:00～15:30

出演者：伊藤比呂美(詩人)、樋口良澄(「現代詩手帖」元編集長)、  
藤井一乃(「現代詩手帖」現編集長)

※4月29日（月）より電話受付を開始します

## 2 第47回朔太郎忌 「猫町観光案内」

詩人・萩原朔太郎が55歳で亡くなったのは、1942（昭和17）年5月11日。朔太郎の生地前橋では、例年命日に近い土曜または日曜日に、日本の詩を大きく変えたこの詩人を偲んで「朔太郎忌」を開催しています。

朔太郎は詩人でありながら、小説やエッセイ、数多くのアフォリズムを残し、音楽や美術、写真や映画にも造詣が深い人でした。今回の朔太郎忌は、朔太郎が書いた短篇小説「猫町」を中心に、その多ジャンルぶりに切り込みます。

### （1）日時・会場

5月11日（土）14時～16時30分  
前橋テルサ（千代田町二丁目5-1）ホール

### （2）主催／共催

朔太郎忌実行委員会／萩原朔太郎研究会、前橋市、前橋市まちづくり公社、前橋文学館友の会

### （3）内容

- ① 第一部 対談「詩と小説と音楽と」  
島田雅彦氏（作家、俳優、法政大学教授）  
松浦寿輝氏（詩人、作家、東京大学名誉教授、萩原朔太郎研究会会長）
- ② 第二部 リーディングシアター「猫町観光案内」  
脚本：栗原飛宇馬（文学研究者）、演出：萩原朔美（前橋文学館館長）  
音楽：荒木 聡志  
出演：町田康（作家・詩人・歌手）、柳沢三千代（女優）、手島実優（女優）他

### （4）チケット

500円で販売、定員500名（現在販売中）  
販売箇所：前橋文学館、煥乎堂、前橋テルサ  
※遠方の方は文学館での取り置きも可

### （5）その他

二部のリーディングシアターは、萩原朔太郎の短篇小説「猫町」から朔太郎研究会会員で文学研究者の栗原飛宇馬氏が書き下ろしたもので初演となります。  
5月11日（土）10時30分から、ゲネプロ開始。その時は、写真撮影可能。

### 【担当】

萩原朔太郎記念 水と緑と詩のまち前橋文学館  
電 話：027-235-8011